

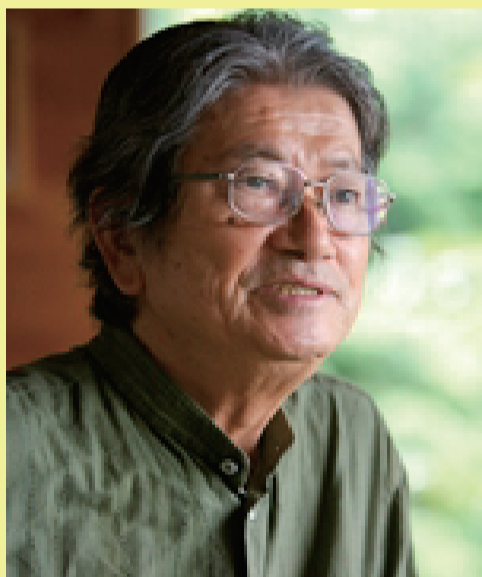
農文研講演会

『日本の稲作文化の将来を 世界大の視野で考える』

米沢での米づくりは今より1800年前（弥生時代中期 万世堂森清水北C遺跡 粃痕付土器出土）に始まるといわれます。

日本における稲作の歴史を最新の資料にもとづいて検討し、稲作と米食を基礎にした日本文化の特性を、世界大の比較の視野で見ます。農産物流通の国際化と、稲作技術継承者の減少が進む危機的状況での、日本の稲作文化のあり方を講演します。

置賜文化に深く根付いている「供養」の習俗も、再考したい。



東京外国語大学名誉教授・農村文化研究所顧問

講演者 川田 順造 氏（人類学者）

2月11日（祝・土）

13：30～15：30

定員：50人（先着）

場所：置賜総合文化センター（旧図書館）第2会議室

資料代：500円

講師を囲む会（要予約） 会費：2,000円

米沢市中田町 いちばん山形県米沢市中田町 508番

申し込み：0238-37-5175（遠藤）・農文研 0238-37-5362 まで

主催・（公財）農村文化研究所 共催・米沢市教育委員会